

# 中田かわら版 3月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

## 【IZUMI サーキュラーイエローPJ キックオフイベント開催】 菜の花と向日葵が咲き誇る地域に

菜の花と向日葵（ひまわり）を共に栽培して循環型経済で地域づくりを進める取り組みのキックオフイベントとして「IZUMI サーキュラーイエロー セッション 2026」（中田地区経営委員会主催）が1月31日、JA 横浜南総合センターのホールで約 100 人が参加して開かれた。川崎市で向日葵を栽培しタネから油を搾るプロジェクト「まちなか向日葵しぼり隊」の活動をしている園芸家、深町貴子さんが講演、パネルディスカッション＝写真＝では共働舎の畑の菜の花を生育の様子などが報告され、今後の広げ方を意見交換した。



（※種まきの活動などプロジェクトの動きは12月号のかわら版の記事参照）

ディスカッションに登壇した「みやまえ塾」代表の大学生、森本明希恵さんが、参加した「ふりかえり」を寄せてくれた。

### 地域の子どもたちの体験活動を豊かに

森本明希恵

普段は、多世代交流施設「宮ノ前テラス」を拠点に、子ども食堂や無料塾「みやまえ塾」などの地域活動を行っています。そのご縁から、「IZUMI サーキュラーイエロープロジェクト」にお声がけいただき、1月31日に開催されたセッションに参加させていただきました。当日は、下和泉小学校の児童による発表がとても印象に残りました。廃食油を活用したキャンドル作りや、下和泉地区を走る「Eバス」をもっと知ってほしいという取り組みなど、地域のことを真剣に考え、主体的に活動する小学生の姿に大きな感動を覚えました。

その後のパネルディスカッションでは、私をはじめ、中田地区で障害者向け施設を運営する「共働舎」の萩原達也さん、フェリス女学院大学の学生、議員の方など、さまざまな立場の参加者が、それぞれの視点から、菜の花と向日葵を栽培する活動などへの思いを語りました。

私は日頃、地域の子どもたちに向けた体験活動の企画・運営に携わっています。その中で、子どもたちが地域の多様な大人と関わること、自然に触れること、そして日常ではなかなかできない体験をすることが、子どもたちの成長にとって非常に大切だと感じています。IZUMI サーキュラーイエロープロジェクトが、地域の老若男女や多様な立場の人々をつなぎ、泉区 40 周年を記念する、あたたかく循環のある取り組みとして広がっていくことを心から願っています。

## 「富士山大爆発はあるのか」(下) 宮田 貞夫

「万葉」の時代から日本人は富士を美しく、神聖なものとして眺めてきた。その美しさ故、芸術作品の題材になってきた。わが国で最も古いと言われる歌集「万葉集」に「田子の浦ゆ うち出でて見れば ま白にぞ 富士の高嶺に 雪は降りける」(山辺赤人)は良く知られた歌だろう。「竹取物語」の中で、かぐや姫は最後に天にもっとも近いとされた富士山が舞台になっている。江戸時代になると葛飾北斎の「富嶽三十六景」や歌川広重の「東海道五十三次」など浮世絵などに描かれてきた。近代以降、富士の絵画は西洋の画家、とくにモネやゴッホに影響を与えた。しかし、霊峰富士山を我々は永久に見られるわけではない。

平成 25 年 (2013 年) 6 月 22 日、富士山が日本で 17 番目の世界遺産に登録された。登録理由に「信仰と芸術」があげられ、信仰の構成資産として山頂の信仰遺跡群、須走口登山道、富士浅間神社、忍野八景、白糸の滝、本栖湖など 25 箇所があげられている。世界遺産とは人類共通の宝として位置づけられ、その遺産の価値が認められ、将来にわたって守っていく仕組みが整っているなど、厳しい条件がある。従って国や自治体は世界に向け大切に保存保護に重い責任を負うことになる。

前号(中)で述べたように現在の富士山は青年期に入ったばかりで、今後何十年後、何百年後、いや何万年後に爆発するか分からない。こうした静かな時こそ、国や自治体はいかに被害を少なくするか、対策を考えておく必要がある。

この愛する富士山にも過去に環境破壊の歴史があった。昭和初期のころ、豊富な地下水を利用して発達した製紙工場の存在がある。昭和 40 年ごろの最盛期には 374 の製紙工場が、日産 5620 トンの紙パルプを製造している。1 トンの紙パルプを作るには約 300 トンの水を必要とするが、その工場用水の 79%に当たる日産 120 万トンの地下水を汲み上げている。この乱用は地下水位の低下をともなって海水の侵入をきたし、塩素イオン 5000ppm 以上の地域が現出した(厚生省基準は 200ppm)。製紙の過程で出るヘドロの投棄で川や漁港も汚染で争議にもなっている。さらにスバルラインの工事は必要以上に自然を破壊して造られ、その結果年間 2 万本の枯れ木や風倒木が続出し問題になった。天然林も次々と伐採され、特に落葉樹の伐採は昆虫や鳥類に影響を与え、20 年間に 21 種の野鳥が姿を消している。今私たちができることは、この美しい姿を温かく見つめ、長く長く昼寝をさせてあげたいと願うばかりだ。

追記:<大沢崩れについて>大きな浸食谷。幅700m, 深さ約150m の大穴。そこから下に全長15キロ m、溝のような谷(幅2~50m, 深さ 10~50m)。年間約10万立方mの土砂が崩れている。

### 編集後記

昨年の夏の酷暑化と今回の大雪、日本全土は異常気象。そんな中突然の国会解散、寒い中での選挙戦。さらに投票日は大雪の中。日常生活がふりまわされた国民。それでも我が家の梅が優しいピンク色で開花した。もうそこまで春が・・・と季節の移り変わりを感じる。心に余裕の持てる日々が温かさと共にやって来ることを期待する。

松本純子